令和元年度地域活性化活動助成事業報告書

# 周南こどもゆめまつり〔土鈴素焼きへの絵付け体験活動〕

山口県教育会周南熊毛支部
こどもゆめまつり実行委員会

## １　活動の概要

### ■　「周南こどもゆめまつり」事業への参加

「周南こどもゆめまつり」は、熊毛周辺地域の子どもの楽しみな事業としてすっかり定着している。今年も１０月２８日(日)にゆめプラザ熊毛で開催され、来場者も１万人余りと増加してきた。このイベントに本支部は開催当初から実行委員会に所属し、協力団体として行事を盛り上げて来ている。

本支部のブースは｢ゆめひろば｣部会に属し、｢熊毛の里に来年の福を　土鈴鳴らして呼びましょう」と、子供達に夢を与える活動として来年の干支の素焼き土鈴に絵付けをする体験活動を実施している。また、例年ゆめまつりのスタッフとして熊毛中学校と連携して中学生のボランティアを依頼し、会員と共に活動している。これらの活動は中学生ボランティアの活性化に繋がっている。

この事業は年々定着してきており、近年、特に親子や３世代での参加者が多く見られるようになってきた。毎年来場者も増えてきており１２０個準備した土鈴も午後２時前には完売して、後はお断りするほどに盛況である。土鈴への絵付け体験を通して土鈴の温かみを感じながら思い思いに色塗りをする場面が創出できている。

また、スタッフは揃いのジャンバーを着用して活動し、県教育会の啓発・広報活動も積極的に行うことができた。さらに、子供達の仲間づくりや就労支援事業所「なべづる園」で製作販売されている素焼きの土鈴を毎年まとめて大量に購入することにより、販売促進を図るとともに障害者への理解を深め地域活性化の一助としている。

教育会の「のぼり」も掲示

親子連れの参加者でにぎわうブース

スタッフは一日中大忙し

手際よく活躍する中学生ボランティア

## 2　成　果

この事業を通して次のような成果があったと考えている。

① 消費税率も上がったが、来場者の要望も多いので、土鈴の数はこれまで通り減らさずに購入して、来場者の期待に概ね応えることができた。

② 年々絵付け体験の人気が高まり、熊毛地区以外からも毎年楽しみに来ているという多くの子供達が親子連れで参加している。特に近年は幼児から小学校低学年児童とその両親及び祖父母の参加が増えている。土鈴の素焼きを思い思いに絵付けすることにより、自分で作ったものに愛着をもつ貴重な体験を与えることができた。

③ 絵付けに堪能な支部会員の協力もあり、親子の体験活動の支援にとどまらず､青少年の健全育成の啓発につながるボランティアの機会となっている。

④ 背中に｢ふるさと大好き｣の文字を入れたスタッフジャンバーの着用は多くの来場者の中でとても効果的で、地域や各団体に存在をしっかりとアピールすることができている。

⑤ 支部の担当者が｢わんぱく広場｣部会の代表として役員会(２回)や実行委員会(５回)にも出席しており、この事業への取組が、熊毛地区の各種団体との協力や家庭・学校・地域社会等の連携として定着し、年々着実に高い評価を得て来ている。

⑥ 熊毛地区にある唯一の障害者施設の就労支援事業所「なべづる園」の製品を活用することで当事業所の販売促進を図るとともに障害者に対する理解を深めている。

## 3　今後の課題

本支部がこの事業を継続する上では、次のような課題がある。

① 体験活動を仕組んで、この地域のこどもゆめまつりを盛り上げていくうえで、子供達の創作意欲を引き出し、事業の主旨に沿った活動内容の充実に努めるとともに、本支部が地域での存在を得られるようにさらに鋭意努力していきたい。

② 今回も中学生ボランティアが５名来てくれて、とても熱心に手際よく活動してくれた。中学生にとっては校区内の自主活動の最適な場でもあり、今後も参加を呼び掛けて共に活動することにより、さらにボランティア意識を育てていきたい。

③ 本支部は会員数が少なく、活動資金も少ないのが現状である。年々楽しみにして参加者が増えてきているので、県からの助成金は頼みの綱である。来年度も要望に応えるべく現在の個数で何とか実施していきたい。